

■ 目次	友の会会長挨拶	1	友の会ホームページが出来ました	2
	特別寄稿			3
	令和3年度友の会総会報告 / 友の会伝言板 / 編集後記			4

発行：吉田東伍記念博物館友の会 〒959-2221 阿賀野市保田1725-1(阿賀野市立吉田東伍記念博物館内)
TEL 0250-68-1200 FAX 0250-68-5016 web版友の会通信 <http://wind.ap.teacup.com/togo/>

H P <https://togo-tomonokai.com/>

E-mail info@togo-tomonokai.com

Twitter @y_togo

友の会活動の未知なる探求

吉田東伍記念博物館友の会 会長 長谷川 明一

令和3年度の吉田東伍記念博物館友の会は、昨年5月23日に開催した総会以降、行事等の事業を実施することができませんでした。新型コロナウイルス感染症の拡大防止がその理由ですが、総会で決めていただきました事業を実施できなかったことをお詫び申し上げます。

この間、公立博物館の友の会活動に期待されるものは何か、この課題を考えることで会員個々が共有できるものは何か、を考えました。結論には至りませんが、その方途を考える原点は、吉田東伍の著作にあるように思いました。地理、歴史、能楽、自然災害などに関する東伍の著作は、自然豊かな「郷土」に思いを寄せ、次代を担う若者たちへ、その素晴らしさも課題もつなげていくことの重要性を私たちに教えてくれます。また、従来型にとらわれず、あらゆる変化に対応していく東伍の研究姿勢にも勇気づけられます。

ウイルス禍に翻弄され、最近は何事にも受け身になりがちです。感染対策を行いつつ、新年度は気持ち切り換え、新たな発想を持って友の会活動を探求してみてもはどうでしょうか。そこにおのずと道は開けていくはずで。

吉田東伍記念博物館のキーワードは、「郷土の地理・郷土の歴史というものは、とりもなおさず郷土の未来に向かってその応用を待つものである」です。多様な価値観が存在する時代。これまで蓄積されてきた成果と課題を見直し、持続可能な発展目標を今後の友の会活動は探求していきます。

新たな気持ちで再始動する当会へのご支援、ご協力を引き続きお願い申し上げます。



吉田東伍生誕之地碑 (2021年5月撮影)

平成30年10月に除幕した石碑は、草木と苔が成長して周囲の景色に溶け込んできました。博物館は、マスク着用、手指の消毒など、新型コロナウイルス感染防止対策を講じたうえで開館しています。ぜひ来館のうえ、東伍生家と日本庭園の景色とともに楽しみください。

友の会ホームページが出来ました。

<https://togo-tomonokai.com/>



QRコードを利用すると便利です。

今年度に計画されていたホームページ作成事業が、この度ようやく大枠が完成し、公開する運びになりました。まだまだ内容不足の点もありますが、徐々に補完してまいります。

皆様も、パソコンやスマートフォンなどで、「吉田東伍 友の会」と入力して検索してみてください。検索結果の上位に表示されると思います。

画面右下に青いマークが常時表示されており、少々目障りな感じがしますが、これは最新のスパム（迷惑行為）対策を設定しているためです。なにとぞご理解ください。

記事の大部分は、友の会設立20周年記念誌から抜粋しておりますが、「こんな内容も掲載してほしい」という要望がありましたら、ぜひお寄せください。「ここが間違っているよ!」という指摘も大歓迎です（汗）

さて、当初はホームページ作成ソフトを購入する予定で予算計上していました。しかし今回は、無料で且つ様々な機能面で優れている WordPress（ワードプレス）というオープンソース・ソフトウェアを利用して作成しました。

これによって経費削減はもとより、ホームページとブログの2つの要素を持つことになり、新着情報やイベント時の緊急連絡など、速やかな情報提供が可能になりました。

経費はレンタルサーバー代のみです。

ぜひパソコンやスマートフォンの“ブックマーク”や“お気に入り”に登録し、活用していただきたいと思えます。

☆作成責任者・廣田正博（友の会会員）

◎パソコン版ホームページ



◎スマートフォン版ホームページ



スマートフォンの場合は、画面左上の〔四角に横線三本〕のマーク（写真の円内）をクリックすると、メニューが現れます。

想定外の婿養子

吉田東伍記念博物館名誉館長 吉田 ゆき

旗野東伍は20歳の時、大鹿の吉田耕次郎の婿養子となり、跡取り娘カツミと結婚しました。明治17年（1884）のことです。吉田耕次郎は地主で、比較的若い頃から戸長になり、町村合併で小合村こあいとなると村長を務めました。

東伍の実家である保田の旗野家は、すでに大鹿の地主石黒家と縁を結んでいました。石黒家は東伍の叔父忠三郎を婿養子として迎え、明治8年（1875）には東伍の次兄弘二が婿養子となり、二代続けての縁組でした。旗野家は山林地主でしたが、膨大な山林に比して水田が少なかったためか、水田を所有する地主と姻戚関係を結んだと伝わっています。旗野家と吉田家との関係も同様だったとのことです。

当然のことながら、耕次郎は「旗野様からもろた養子」が傍らに居て、自分の仕事を手伝ってくれるものと思い込んでいました。ところが、この無口な養子は、とんでもない規格外れだったのです。

東伍は吉田家に来て何年も経たないうちに、家族に何も言わず北海道へ行き、「とんだ養子が来てしもたもんだ。」と耕次郎を嘆かせました。1年ほどして、東伍は何事もなかったように帰ってくると、今度はさっさと東京に行ってしまいました。

「大鹿にいれば、座敷に座っているだけで楽に暮らしていけるてがんに、なして、わざわざ苦勞しに、東京に行っただか。」

「田畑も持たず、小作もおらんで、どうして暮していぐんかね。」

寡黙な東伍は自分の決意を話さなかったので、耕次郎は心の内を測りかねました。

「どこかで働いて金もろてるだと。そんげことして、日傭取りひようとりでねえか。」

「日傭取りひようとり」については、こんな話が伝わっています。五泉の和泉家の乳母が「うら（私）が大事にお育て申し上げた、おユキ様を、あんげひようとりな日傭取りにお嫁にやりなさった。他の嬢じよっ子様方は皆、旦那様方に嫁がせなさったてがんに、あんま情けのうて。」と悲憤慷慨したそうです。ユキとは東伍の母ソノ（園子）の姪のこと、「あんげひようとりな日傭取り」とは、市島春城のことです。「日傭取りひようとり」には現在のサラリーマンも含まれていましたが、この時代の働き方としては、あまり一般的ではなかったようです。東京では少しづつ広まっていましたが、少なくとも、越後では理解されにくく、みっともないと思われるのでした。

耕次郎は東京の東伍一家に度々金銭援助を申し出ますが、東伍は感謝しながらも、きっぱり断りました。「貧乏こいても」、経済的自立は「基本のキ」だったのです。

やがて、東伍の仕事を知るようになった耕次郎は「これは、ただ者ではないかもしれない。」と思うようになり、後年には、家族に「東伍を誇りに思う。」と話していたそうです。

令和3年度友の会総会報告

令和3年度総会は、5月23日(日)午後1時30分から吉田東伍記念博物館(吉田東伍生家)で開催されました。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のうえ、一年ぶりに対面で実施しました。

議事は、長谷川明一会長の開会あいさつ後に会長を議長として進行しました。令和2年度事業報告・決算報告(会計監査報告)、役員改選、令和3年度事業計画・予算案について慎重審議の結果、原案どおり承認されました。令和3・4年度の運営委員(役員)は下記のとおりです。

なお、令和3年度はその後の新型コロナウイルス感染症感染状況を鑑み、議案どおりの事業を遂行することができませんでした。重ねてお詫び申し上げます。(友の会事務局)

○令和2年度事業報告

期 日	内 容
7月12日(日)	令和2年度 吉田東伍記念博物館友の会総会 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため運営委員会に代替え開催
10月11日(日)	第19回研究発表会 発表テーマ「星のかずかず語りつけぬ 星空への招待 特別編」 発表者 廣田 正博 氏(サークル「友の会天文部」責任者)

友の会伝言板 事務局より

①新規会員を募集しています!

ご近所、ご家族、ご友人に入会のお声かけをお願いします。

②原稿を募集しています!

『友の会通信』の「会員の研究ノート」「会員随想」「友の会伝言板」のコーナーへの投稿をお待ちしています。詳しくは友の会事務局までお問い合わせください。

③令和4年度会費の納入のお願い

会費 (年額)

一 般：2,000 円
学 生(大学生以下)：500 円
家 族 会 員：3,000 円
賛 助 会 員：1口 10,000 円

- 本通信と行き違いで既に会費を納入された場合はご容赦願います。
- 会費の納入は、ウイルス感染の機会を少なくする観点から、なるべく振込用紙を使用して行ってください。

令和3・4年度 吉田東伍記念博物館友の会運営委員

役 職	氏 名
会 長	長谷川 明 一
副 会 長	百 都 政 弘
副 会 長	藤 崎 達 也
運 営 委 員	五十嵐 一
運 営 委 員	小 野 民 裕
運 営 委 員	小 林 弘
運 営 委 員	白 井 皓 一
運 営 委 員	信 田 久 榮
運 営 委 員	渡 辺 興 志 和
会 計 監 事	廣 田 正 博
会 計 監 事	渡 辺 ヒ サ
事 務 局	小 野 里 澄 子
事 務 局	田 中 洋 史

編集後記／

新型コロナウイルス感染症の影響で日常が大きく変化しました。新しい友の会活動を志向したものの、令和3年度は我慢の一年に。写真は博物館の雪割草です。希望の春。前向きな一年の始まりを迎え、運営委員一同で活動の再構築を期しています。(事務局T)